

農地転用の約 49.7kW システムで年間売電 200 万円超 固定価格買取制度による安定収入で老後の安心生活へ



導入先

石井彦彌さま

- 京都府木津川市
- 稲作を中心とした農業を営まれる。太陽光発電システムの導入にも積極的で、ご自宅にも計 17.7kW のシステムを設置。



導入商品

多結晶太陽電池モジュール

ND-193CA×258 枚=49.665kW

- 斜度約 25 度の南東向き傾斜地にあった畑地 1,330㎡のうち、350㎡を雑種地として農地転用し設置。2013年2月運転開始。

販売：株式会社大久さま

こんなソリューションを実現しました。

導入前の課題

以前は果樹園でしたが傾斜地のため耕作には不適で、しかも残された果樹を求めて動物が集まり、近隣にまで迷惑をかけていました。ここを将来の生活への安定した収入源として有効活用する方法を探していました。

農地転用して約 49.7kW 設置。年間 200 万円超の売電収入が見込まれます。

京都府で初めての農地転用案件として注目を集め、地域活性化への期待も高めています。

固定価格買取制度による今後 20 年間の安定した収益で、将来の生活への安心感が生まれました。



農家
石井彦彌さま

■ 導入の背景

**耕作不適な農地を有効活用し、
将来に向けて安定した収入源を確保したい。**

以前柿を栽培していた農地が傾斜地のため畑作不適地で、しかも残された果樹に猿や猪などの野生動物が集まり、近隣の畑にも被害が及ぶこともありました。何とか農地を有効に活用できないかと検討を重ねていたところ、再生可能エネルギーの固定価格買取制度がスタート。安定した売電収入が得られる太陽光発電事業として、農地転用を行ってソーラーパネルを設置することを決断しました。

■ 選ばれた理由

**人工衛星でも稼動しつづける耐久性と実績。
50kW 未満で変電設備を設置せずコスト削減。**

20年間という長期間にわたって稼動させるものなので、人工衛星などの過酷な環境でも長年の稼動実績があり、商品への信頼性が高いシャープのソーラーパネルを選びました。設置予定地の面積には余裕があり、数多くパネルを並べることもできましたが、出力が50kW以上になると変電設備等の設置が必要となり投資額が大幅に増加します。それを超えない出力にして設置費用の早期回収を目指しました。



コンクリート基礎の代わりにスクリュー式の金属杭でパネルを設置

■ 導入後の効果

**年間 200 万円超の売電収入を実現。
予想以上の発電量に大満足。**

太陽光発電システム設置のための農地転用が京都府で初めて許可され、2012年11月着工、2013年2月に竣工し、運用を開始しました。当初の予想以上に発電量を上げており、売電収入も年間200万円を超える見込みで、固定価格買取制度によって、今後20年間に渡る安定した収入源となりました。今後は太陽光発電に生活を支えてもらうことができ、将来の大きな安心材料となっています。



変電設備を設置せず電力系統と低圧連携し、コストを削減

■ 今後の展望

**農地転用でさらなる太陽光の導入を検討。
太陽光を地域活性化のアピールにも活用。**

太陽光発電は確実な収益を見込めるので、今後も傾斜地等の機械化しにくく耕作不適な農地を転用してソーラーパネルを設置しようと考えています。また、農地転用による太陽光発電事業は始まったばかりなので、見学者もたくさん訪れるなど注目を集めており、これをアピールして地域活性化にも貢献していきたいと思えます。

京都府初の農地転用事例として、
地元自治体の農業委員会だよりで
取り上げられた